

令和3年度 第5回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和4年3月30日(水) 13:30～
開催場所	市庁舎会議室
出席者	小宮輝之委員長、浅井紀代子委員、齋藤毅憲委員、佐渡友陽一委員、指定管理者
欠席者	間曾さちこ委員
開催形態	非公開
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度第4回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録案の確認</li> <li>2 令和3年度下半期モニタリング報告</li> <li>3 令和4年度事業計画書</li> <li>4 令和3年度包括外部監査結果の報告</li> </ol>
<p><b>1 令和3年度第4回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・了承</li> </ul> <p><b>2 令和3年度下半期モニタリング報告について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物園の指定管理をよくやっているのが分かった。</li> <li>・オンライン活用の報告があったが、もっと広げていけるか検討してほしい。 →対面は表情が分かるという良さがあるということを現場でも理解している一方で、出張ではできない範囲にも広げられることを、オンライン授業が普及してきた中で気付くことができた。今後も併用していくことだと考えている。</li> <li>・オンラインで実施した「野毛まちなかキャンパス」はどのくらい的人数が受講したのか。 →約70名の参加だった。もともと横浜商科大学と一緒にはじめ、主に10月に開催している。受講料は1回1000円位で動物園や「まち」をテーマにし、にぎわい座や能楽堂などについてみんなで検討しあいながら街の活性化につなげるというものである。</li> <li>・「野毛まちなかキャンパス」は、対面時には定員20名で実施していたようだが、オンライン実施は結果として良かったのか。 →コロナ禍のためオンライン実施としたが、効果検証はこれからになる。今後の実施形式は未確認である。</li> <li>・今後の検討もしっかりしてほしい。</li> <li>・今は実験的なステージで、評価や目標はまだ定まらない時だと感じる。今後も継続して実施しながらあり方を考えてほしい。</li> <li>・(学校対象の) オンライン授業に料金は発生しないのか。 →受講料は無料でネットワーク接続料のみである。</li> <li>・一般的にオンライン研修などでも研修参加費用が発生するが、オンライン授業に関しては無料という考えなのか。 →対学校の授業に料金は発生しないという考えである。</li> <li>・オンラインに関し、目標の立て方は難しいと思う。収入を目的にしていないことは理解できるが、オ</li> </ul>	

ンライン授業を実施したという結果だけをみて良かったという話になりがちであり懸念される。海外の日本人学校等との新たな可能性が見えたことは大いに結構であるが、今後それを継続する場合の目標をどのように捉えているか。

→帰国した際に動物園に来園してもらうことも目標になると考えている。

- ・来園者を増やすことが目的であれば、海外の日本人学校を対象にすることではないと思う。教育事業とは来園者を増やすことが目的ではないはずである。

→海外においても横浜市の動物園を知っていただくことはできるので、効果はあると考えている。

- ・国際的な日本人社会の中でのプレゼンスを高めていくことも含めて、横浜市の動物園なりに海外へ働きかけることは非常に意味があると前向きに実施するのは結構だが、もう少し考えてほしい。

→教育事業については、学校教育で教科書の授業を補てんする形のもの、いわゆる環境教育といわれるものを明確に分けていくよう指定管理者とすすめている。海外の学校に対する授業は、偶然入ってきた話であり対象の子どもたちに求める内容は横浜市の子どもたちに求めていたものと同じである。小学校の授業を補てんする内容については、学習目標について先生が満足しているかという点が評価指標になるが環境教育については、今後の大きな教育普及活動の中で、一般の学校教育の補てんという位置づけと分けていきたいと動物園と相談している。

- ・国際都市横浜としてそのようなことも含めてしっかりと対応してほしい。

- ・ミゾゴイの野生復帰を目指す放鳥は素晴らしい。動物園で域外保全を行っているといえるのは、域内保全に貢献しているからであり、動物園動物の確保だけでは、域外保全の貢献とは言いにくいと常に感じている。そのような意味でミゾゴイという身近な動物で一步進められていることに意味がある。

- ・資料から読み取りにくかったが、大人向けの動物教室の内容についてヤマネコをどのように扱ったか説明してほしい。

→よこはま動物園において保全をテーマに動物教室を開催した際に、ヤマネコの人工授精の説明をした。

- ・ユーカリ栽培管理について、「隣地の火災によりハウスが延焼し一部収穫不能となった」とあるが、一部とはどのくらいか、コアラに対する供給に影響はでているか。

→対象の場所は全体供給量の3%に満たない量の栽培であり、影響は少なかった。

- ・ユーカリは無事だったか。

→温室内のユーカリは全て供給できなくなってしまった。有害物質のついた枝葉をコアラに供給することはできないため、新しい芽を育てていくためにすべて台切りを行った。

### 3 令和4年度事業計画について

(指定管理者参加)

- ・事業計画書の目次や全体の構成が、今後の評価についても意識していると感じとれた。横浜市と指定管理者の現場レベルにおける連携が図られていることがよく分かる。

- ・部長を置くなど組織の見直しを図ったことが分かった。

- ・組織図についてしっかり記載してほしい。理事長や常務理事、協会組織とのつながりが分かるように

すべきである。

→（指定管理者）御指摘のとおりであり改める。

・トップマネジメントをしっかりと確立してほしいと感じているが、人材マネジメントの取組として管理職教育はどのようなことを行っているか。

→（指定管理者）外部講師を招いて問題解決などの研修を実施している。

・現場がしっかり動いていることはよく分かる。問題なのは、トップが今後の動物園をどのようにしていくか考えてほしいということである。老朽化の問題のように長期的に考えるべき課題は現場の人たちにはできないことであり、トップの人たちが考えるべきである。動物園をどのようにしていくかという目標や理想論を語る部分は、単なる問題解決ではなく難しい問題であり協会のガバナンスの確立が課題であろう。

・組織図の中でよこはま動物園の園長は、動物園部長の次になるのか。

→（指定管理者）園長は団体の中の位置づけでは非常勤嘱託員のため、この形になる。

・動物の専門家として将来のビジョンを考えるときには重要な立場だと思う。

→（指定管理者）年度の方針を決める際にも必ず相談をして、職員へ周知する目標も設定しているため組織に関わっていないというわけではなくて、ブレイン的な形での位置づけになっている。

・野毛山動物園でも金沢動物園でもクラウドファンディングを実施したが、応募してくれた人はこれからのことを考えると大切な存在である。このような方々をどのように次に繋げようと考えているのか。

→（指定管理者）金沢についていえば、ゾウのための自動給水設備が完成した後に御披露目ガイドのようなものを行う。クラウドファンディング運営会社を通じて寄附者にメール等でお知らせし、実際現場に来ていただくようなことも考えている。

・ファンドレイジングのドナーピラミットという考え方の中で、寄附を寄せてくれた人はとても重要な方々なので、うまく次に繋げていってほしい。

・業務の効率化による経費削減の項目に記載されているのは、草刈りロボットの導入のみだがこれだけなのか。草刈りロボットは良い取組だと思うが、普段から業務の効率化に対してどのように取り組んでいるか。

→（指定管理者）草刈りロボットの導入は、今年度新たに取り組む内容として記載した。その他には、飼料をまとめて共同購入し母数を増やすことによって単価を下げたり、ゴミの廃棄や園地管理などをまとめて発注することで単価を下げたりすることで経費の節減を実施している。またコロナの影響で、国際会議や3動物園間の調整会議・ゾウの担当者会議など様々な会議をリモート形式で実施している。

・3園の調整会議をリモート会議で実施するだけでも、時間的にも経費的にもかなり効率化が進んでいると思うので業務の効率化として書き加えてもよい。

・コロナを起因とするリモート会議は、受け身で始まっているものなのでもう少し考えてほしい。

・入園者の目標設定について、金沢動物園は実績も踏まえて妥当だと思うがコロナなどの予測できなかった環境のもとでは、よこはま動物園の125万人については合理的な設定であるのか確認したい。

→（指定管理者）厳しい状況であるが、設定されている以上それを目指して頑張る。ただし、現状は難

しいことを理解しているので実態に合わせた予算を組んでそれに見合う支出をし、収支をまとめるように努力している。

・コロナ禍のため、100～105万人を目標にして、2年ぐらいかけて125万人に修正するような設定はできないのか。

→入園者目標については、指定管理を選定する際に前提として掲げた目標である。過去に120万人を超えた時期もあり、目標として頑張っていくということである。ただし、市としてこの目標を達成しないから評価しないということではない。125万人の目標は目標として、最大限努力するということである。

(各動物園より)

→(野毛山動物園) ふれあい広場の予約制導入が動物福祉の面も併せて野毛山動物園の中では大きい課題である。初めて実施するので作業効率などについても今後検証が必要と考えている。野毛山動物園は令和3年度もかなり来園者が減少した。やはり、公共交通機関を避け自家用車で出かける傾向がある中で駐車場がなく、また一番代表的なふれあい広場がコロナ禍で一切できないということが大きいと分析している。動物園の世界的な流れの中で、ふれあいと動物福祉をどのように共存させるかという課題もあり大きくメスをいれていきたい。予約制を導入することで人数をかなり絞る形になるが、より丁寧に動物にも人にも優しいふれあいに大きく転換して検証をする。

→(金沢動物園) 開園40周年記念で年間を通してイベントを開催している。クラウドファンディングは、1月17日から53日間で目標を大きく達成することができた。33万人の入園目標に対して32万人の来園があり、さらにこれからも40周年記念で様々なイベントを実施し多くの方に来ていただきたい。現在、18区全区の資源循環局の放送から、金沢動物園の40周年について放送を流している。また民間企業とも連携しながらイベントを進めているので、来園につながるとよいと思っている。

→(よこはま動物園) 日本動物園水族館協会の加盟園でWAZAに加盟している園に関して動物福祉に関するチェックが入ると思われる。よこはま動物園もチェックの対象になると思われるので、日本の動物園や世界の動物園の動きに合わせて調整していくことが課題と考えている。

#### 4 令和3年度包括外部監査結果の報告

・質疑なし

配布資料

資料1	令和3年度第4回指定管理者選定評価委員会会議録案
資料2	令和3年度下半期モニタリング報告
資料3	令和4年度事業計画書